

1 活動の概要

「まいぎり式火起こし器」を使用し、マッチ等を使わずに工夫・協力しながら火を起こし、昔の人の暮らしを体験する。

2 ねらい

- (1) 火のつく仕組みを学ぶと共に、その困難さを知る。
- (2) 協力、友愛など好ましい人間関係を育てる。
- (3) 歴史学習の補充進化として体験する。

3 活動場所

野外食事棟、野外炊事棟

4 所要時間

約1時間

5 準備・服装

個人	動きやすい服装、軍手（革手袋等）
団体	グループ（班）分け
青少年の家	まいぎり式火おこし器、火きり板、麻ひも、火種受け用板（段ボール） 新聞紙、その他必要なもの（火ばさみ、ちりとり、ほうき等）



火起こしの道具

6 経費

1セット400円（1セット6人まで）

7 活動の流れ

(1) 用具の準備

- ① 各グループごとに、火起こしに使用する用具を準備する。
- ② 麻ひもをほどき、綿状にまとめる。
- ③ 新聞紙で船型の入れ物を作り、②の麻ひもを中心部に入れる。
- ④ ③をちりとりの上に置く。

(2) 火種を作る

- ① 火起こし器を持つ人、火きり板を押さえる人と分担を決める。
- ② まいぎり式火起こし器を使用して、火種を作る。

(3) 火種を炎にする

- ① 火きり板のV字の溝に、摩擦でできた木の粉が十分にたまり、粉から煙が出るのを確認したら、回すのを止め、火起こし器を静かにはずす。
- ② しばらく待ち、火受け用板（段ボール）に乗っている粉に火種（小さな赤い部分）を確認したら、火種を（1）で準備した麻ひもの上に静かに移動させる。
- ③ 火種に細く長く息を吹きかけ続けると、火種が炎に変わる。
※火種が麻ひもに燃え移り、ポッと音を立てて炎に変わるまで息を吹きかけ続ける。

(4) 用具の後片付け

- ① 各グループごとに、使用した用具を片づける。
- ② 灰やゴミ等をきれいに掃除する。

8 留意事項

- (1) 用具や火の取り扱い等、安全面に留意する。
- (2) 体験後、灰は炊事棟脇の一輪車に集め、水をかけて消火した後、灰捨て場（多目的グラウンド脇）に捨てる。 ※引率者は、消火確認を確実に行う。
- (3) 火起こし体験で起こした火を野外炊事に使用する場合は、はじめに野外炊事の下ごしらえ（材料を切り、火にかけるまでの準備）をしてから、火起こし体験を行う。